



奥野 嘉己議員

Q 市街化調整区域での新住民による住宅建設は

A 市条例の11号範囲を他市並みの広さに変更はしない



その他の質問

- ・吉田学園の状況について

Q 都市計画法第34条第11号とは。

A 市街化区域に隣接または近接する既存集落で、50以上の建築物が連たんする地域において、条例に規定する区域内であれば、だれでも自己用住宅が建てられる規定。

Q 近隣市や県が規定する条例での11号範囲は市街化区域から1kmであるが、これと比べると当市条例の規定500mは厳しく人口減少の一因とも思える。人口減少を防ぎ、公平な都市間競争の観点で、当市条例を改定し、500mから1kmへ拡大できないか。

A 市街化区域も大きく、コンパクトシティ推進の観点から他市並みへの変更はしない。

Q 稲枝駅西側地区の市街化区域編入による11号区域見直しは。

A 県による編入決定後、11号区域の見直しを行ったうえで関係自治会に周知する。



伊藤 容子議員

Q 最もコストの安い事業を目指したこの2年の取組への市の総括は

A 組合への交付金拡充のため環境省への要望活動を連携し進める



その他の質問

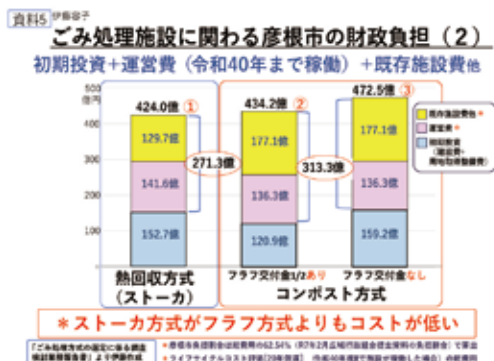
- ・平田川を渡る避難路について

Q 新ごみ処理施設整備について、最もコストの安い事業を目指す2年間の取組の総括は。

A 施設の建設費以外に周辺道路整備費用も必要で、財政的に実現困難な焼却方式に代わる手法として、広域行政組合（以下「組合」）で好気性発酵乾燥方式（以下「フラフ」）を検討され、事業費が負担可能な金額の可能性などから方針を決定。組合への交付金拡充に向け、環境省への要望活動を連携し進める。

Q 焼却方式の初期投資が不可能というが、フラフとの違いは31億円。2回の調査の間での焼却方式の値上がりは24億円。初期投資額との差の75%は、報告書作成の間の値上がりが占める。調査を重ね事業が遅れることで更に費用が発生する現状は本末転倒では。

A 組合議会でフラフ方式を採用方針と決定され、実証実験も可決された。交付金拡充の要望活動について組合と連携を図っていく。



▲「ごみ処理施設に関わる彦根市の財政負担ライフサイクルコスト表」（令和40年まで稼働）



八橋 龍二議員

Q 障害者用駐車場の不正利用についての罰則制度の可能性については

A 罰則制度は慎重に検討すべきで現時点では罰則の導入は考えていない



その他の質問

- ・平和堂HATOスタジアムの外壁修繕の進捗状況について
- ・障スポ観戦の意義と今後の可能性について

Q 他国の罰則制度を参考にした対策の可能性についての検討は。

A 罰則などの不利益処分を導入することは、インクルーシブな社会の実現に向けて進んでいる中において障害のある人や配慮を要する人と、そうでない人との間に不必要な溝を生じさせかねないとも考えられる。そのため罰則制度は慎重に検討すべきことであり、本市においても現時点では罰則の導入は考えていない。

Q 障害者用駐車場について今後の市の方針は。

A 新たな制度の導入は考えていないが、市民への周知・啓発活動は引き続き行う。今後も、市民の皆様が障害のある人や高齢者、妊婦等に対する理解を深め、誰もがお互いに人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現に向けた地域づくりを関係団体等と連携して進めていく。



▲車いす優先区画と思いやり区画



矢吹 安子議員

Q 「おくやみガイドブック」の利用状況と「おくやみコーナー」設置についての見解は

A 県内13市中7市が設置、できるだけ早い時期に速やかに取り組む



その他の質問

- ・彦根市の防災対策と防犯対策について
- ・能登地方への災害支援について
- ・休日急病診療の今後の展望は

Q 令和3年度に配布が始まった「おくやみガイドブック」の利用状況は。

A 本市に住民登録のある方がお亡くなりになった際に、必要となる手続きや情報を提供する冊子。

令和6年度は1,500冊作成し、本年2月時点で1,200冊配布した。

Q 「おくやみコーナー」については、予約の時間だけスペースを開けるやり方があるが、いまだ設置に至らない理由は。

A 「おくやみコーナー」の設置の必要性は十分認識しているが、スペースの確保等の課題がある。多くの自治体で予約制とされているので、同じように予約制の対応ができないか他市の事例で研究する。まずは人員を確保し、課題を解消できるよう進めていく。県内13市のうち、すでに7市が設置されている現状から、できるだけ早い時期に速やかに取り組んでいく。



▲守山市のおくやみコーナー



北川 元気議員

Q 無痛MRI乳がん検診の目的と意義、期待する効果は

A 痛みのない乳がん検診で受診者数増加と早期発見を目指す

Q 無痛MRI乳がん検診の目的と意義、期待する効果は。

A 乳がん検診の受診者数増加と早期発見を促すため、新たに無痛MRI検診を導入する。従来のマンモグラフィーと異なり、乳房を圧迫せず、放射線被ばくの心配もない。特に「痛みが怖い」「見られるのが抵抗がある」といった理由で受診を避けていた市民にとって有効な選択肢となる。受診者数の増加と、乳がんの早期発見・治療につながることを期待している。今後、広報やホームページ等を活用し、多くの市民に認知されるよう努める。



その他の質問

- ・ふるさと納税の寄附額が市財政に与えた影響は
- ・市職員の働き方改革（パワハラ等対策）の効果は
- ・和田市政1期4年の総括は



▲無痛MRI乳がん検診機器



戸崎 克司議員

Q 彦根お城トンネル開通後、原町交差点の交通渋滞の影響は

A 原町交差点周辺の交通事情の変化について注視している

Q 外町交差点の右折矢印信号、赤信号の点灯時間の変化に関する見解は。

A 県道25号や国道306号を含め、警察においては状況を観察しており、慢性的な交通渋滞が発生する場合は、信号サイクルの見直しを検討すると聞いている。

Q 彦根お城トンネル側のイオンタウン彦根出入口、東側の市道の交通安全対策は。

A 原松原線の供用に伴い交通量に変化が生じることにより、新たに児童・生徒の危険となる場合は、その安全対策について地域からご要望をいただければ、合同点検により対策を検討していく。

Q 旧原町交差点跡地の土地活用として、モニュメント・観光案内板を設置しては。

A 本市の観光振興に寄与する場所と認識しており、本市のブランディングにつながる有効な土地活用について検討していく。



その他の質問

- ・国スポ障スポ開催準備として、彦根市への再来・リピートにつなげる計画は
- ・国スポ障スポ開催時の出店ブースの計画は



▲彦根お城トンネル開通後の「原町・彦根インター側」、「古沢町・国道8号側」それぞれの車の誘導